

## ロープ計測についてのガイドライン

2010/10/1

日本フリーダイビング協会

< Japan Apnea Society/AIDA Japan >

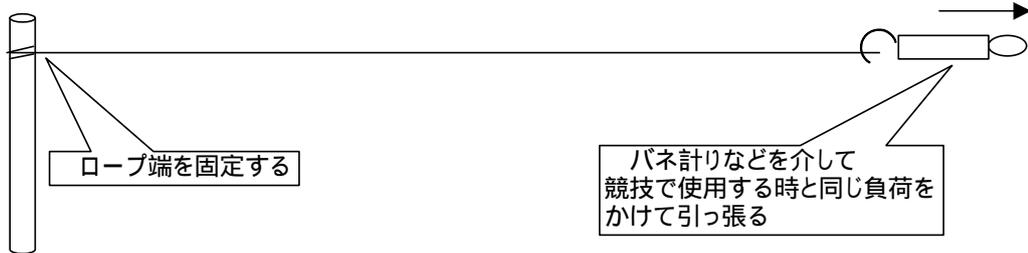
### はじめに

本テキストは、フリーダイビング競技における、ロープ計測の方法についてのガイドラインである。

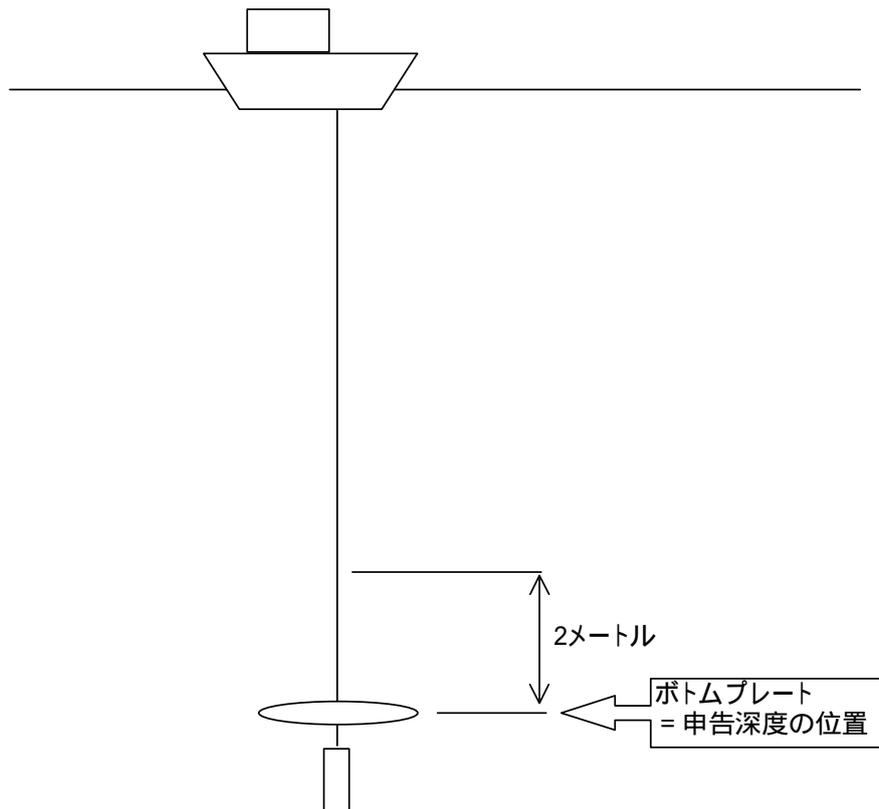
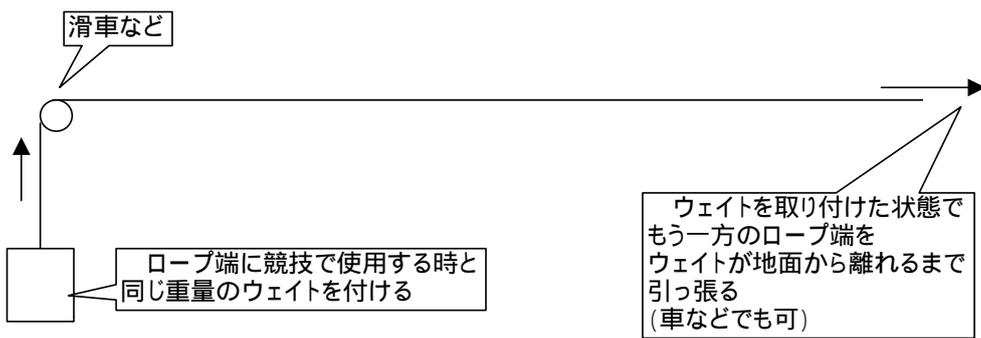
フリーダイビング競技規則 ver.12 における「3.2.9 ロープ計測」の項と合わせて運用するものとする。競技規則と本テキストの記載内容に違いがある場合、あるいは競技規則が改正された場合は、競技規則の方が優先される。また、本テキストは日本国内における大会において運用されることを前提に作成されており、日本以外で開催される大会においては、その国のローカルルールが優先される。

1. 大会及びアテンプトで使用するロープは、使用日の 14 日前から当日までの間に長さの計測を行わなければならない。
2. 計測に当たっては、該当の大会及びアテンプトを担当するジャッジの立会が競技規則により定められている。
3. 計測に当たっては、ロープを十分な時間(目安として 2 時間以上)水に浸けた後に行なう。
4. ロープの計測は、競技で使用する時と同じウェイト分の負荷をかけ、引っ張った状態で行なう。  
(このウェイトは最低 15 キロ以上の負荷とする。)  
また、ボトムカメラなどのウェイト以外の物を取り付ける場合は、その水中重量分も考慮したウェイト分の負荷にする。
5. テープへのマーキングをビニールテープ等で行なう場合は、ロープ表面の水分を雑巾などでよく拭き取った後に貼り付ける。テープが水中ではがれたり、ゆるんだりすると、セーフティ・ラニヤードのカラビナに引っ掛かる等のトラブルの原因となりうるので注意する。
6. ボトムプレートから上方 2 メートルまでは、「ゼブラゾーン」(選手がロープを掴んだり引っ張ったりしてもいい区域)が明確に判るようなマーキングを施す。それ以外の部分には、1 メートルごとにマーキングを施す。競技に明らかに使用しない部分については、マーキングをしなくてもよい。ロープを海上で準備する際にわかりやすいように、マーキングの色を部分的に変えてもよい。
7. 計測後のロープは、過度の乾燥を防ぐ為に直射日光の当たらない場所、乾燥・高温の場所を避けて保管する。また、計測箇所の故意の改ざんを防ぐ為、施錠できる場所に保管する等の配慮をする。
8. 初めて使用する新品のロープは、同じ負荷をかけても伸びが変わる可能性があることから、ロープ計測を行なう前に、公式競技以外の練習等で使用する、十分に水に浸けた後、自動車などで負荷をかける、などの措置を取る。

計測方法例



計測方法例



ゼブラゾーン参考写真(photo by T.Noguchi)

